

●DV（ドメスティックバイオレンス）とは

- ・夫婦間など親密な関係でおきる暴力
- ・4人にひとりがDVを経験しており（2023年内閣府調査）社会で多く発生している社会問題
- ・被害にあっていることは話しにくい、殴られてはいないので被害とは気づいていない、などの理由で助けを求めている人もいる。

●DVは個人的な問題ではなく、社会的な問題である

- ・背景には根深いジェンダーの問題がある
- ・DVへの対策が社会で十分ではない
- ・女性が自立しにくい社会の構造によって加害から離れられない
- ・暴力を受けていい理由はない：「あなたも悪かったんじゃないの」「夫婦間ではよくある事」などの発言は二次加害となる

●必要なサポート

DV被害者のトラウマにより集中して考えたり、煩雑な作業をすることが難しくなる場合がある。外からは分からないが心の傷（トラウマ）で当事者が苦しんでいることを理解する。寄り添ってくれる人がいることでトラウマの症状は軽減する可能性がある。

【同行や相談ができる体制が必要なケース例】

- ・調停や裁判では慣れない法律用語や複雑な手続きが負担になる。被害を振り返ることでトラウマの症状が悪化する場合がある。
- ・手当の申請、子どもの奨学金の申請などいくつもの書類に目を通して、記入する作業をひとりでこなさなくてはならない。
- ・DV被害者であることを役所などで説明を繰り返すことの心理的負担が大きい。またストーカー行為がある場合には、加害者や加害者の知人などに役所で目撃される危険にさらされる。

その他にも…

- ・ひとり親支援団体やフードバンクなど必要な情報を手渡す
- ・頼れる先があるという安心感を得られるようにつながり続ける
- ・経済的な問題についても悩む方が多い

※トラウマの症状やその方の状況には個人差があります

●DV家庭の子どもの回復

一緒に生活している親が回復することで、子どもの生活が安定し、それが回復の土台になる。共に暮らす親をサポートすることは子どもをサポートすることとなる。

- ・共同親権の課題について

子どもの福祉が最優先。子どもが安心して過ごすことを一番に考える。